



## 2020年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年7月5日

上場会社名 イオン九州株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2653 URL <http://www.aeon-kyushu.info/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柴田 祐司  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 管理本部長 (氏名) 平松 弘基 (TEL) 092(441)0611  
 四半期報告書提出予定日 2019年7月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年2月期第1四半期の業績(2019年3月1日~2019年5月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第1四半期	53,439	△1.9	△790	—	△614	—	△487	—
2019年2月期第1四半期	54,468	△3.4	△1,198	—	△1,031	—	△821	—

  

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第1四半期	△25.94	—
2019年2月期第1四半期	△43.67	—

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第1四半期	107,413	13,364	12.4
2019年2月期	102,926	14,045	13.6

(参考) 自己資本 2020年2月期第1四半期 13,329百万円 2019年2月期 14,020百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2020年2月期	—	—	—	—	—
2020年2月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※2019年4月10日開示の「イオン九州株式会社、マックスバリュ九州株式会社及びイオンストア九州株式会社の経営統合に係る協議の継続に関するお知らせ」のとおり、経営統合に係る協議を継続することから、経営統合の影響については、2020年2月期年間配当(予想)に反映していません。

## 3. 2020年2月期の業績予想(2019年3月1日~2020年2月29日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	112,000	0.4	△500	—	△400	—	△500	—	△26.59
通期	220,000	△1.9	300	488.4	350	35.0	200	20.9	10.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※2019年4月10日開示の「イオン九州株式会社、マックスバリュ九州株式会社及びイオンストア九州株式会社の経営統合に係る協議の継続に関するお知らせ」のとおり、経営統合に係る協議を継続することから、経営統合の影響については、当業績予想に反映していません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無  
四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年2月期1Q	18,810,719株	2019年2月期	18,810,719株
② 期末自己株式数	2020年2月期1Q	3,280株	2019年2月期	3,280株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年2月期1Q	18,807,439株	2019年2月期1Q	18,804,200株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間（2019年3月1日～2019年5月31日）における経営成績につきましては、収益面では、前期及び当四半期において閉店した店舗の影響はあったものの、今年2月に取得したイオンショッピングセンター福岡店（福岡市中央区）を4月に当社店舗としてリニューアルオープンしたことにより、5月度は増収となりました。また、既存店では、当四半期において食料品売場の客数が前年同期比100.4%と増加いたしましたので、売上高は前年同期比100.3%と伸長いたしました。その結果、売上高にその他営業収入を加えた営業収益は、534億39百万円（前年同期比98.1%、既存店前年同期比100.2%）となりました。利益面では、営業収益が概ね計画どおりに進捗したことに加え、新POSレジや「イオン九州公式アプリ」などの新たなシステムやデジタル技術及び佐賀県基山町に開設されたプロセスセンターの活用など、店舗におけるオペレーションの効率化により販売費及び一般管理費を前年同期比97.2%とした結果、営業損益は前年同期より4億7百万円の改善（当四半期実績△7億90百万円）、経常損益は前年同期より4億17百万円の改善（同△6億14百万円）、四半期純損益は前年同期より3億33百万円の改善（同△4億87百万円）となりました。

セグメント別の概況につきましては、次のとおりです。

#### <総合小売事業>

- ・主力の総合小売事業においては、地域や店舗特性に合わせて直営売場の品揃えを見直し、新たな売場や専門店の導入など、魅力のあるショッピングセンター（SC）づくりに努めました。
- ・店舗面では、今年2月に土地・建物を取得したイオンショッピングセンター福岡店においては、福岡市が推進する「天神ビッグバン」と連携して、地下1階から4階までを商業施設、5階から8階を天神エリアで需要が高いオフィススペースとする計画をすすめて、4月25日に商業施設部分を当社店舗としてリニューアルオープンいたしました。イオンショッピングセンター福岡店では、都市部に立地する店舗として、オーガニックや減塩、カロリーオフなど健康面に配慮した商品の品揃えを強化した食料品売場、美と健康に関する商品の品揃えを拡充したビューティ&ファーマシー売場、毎日を心地よく過ごす大人のカジュアル衣料と肌着を中心とした新たな衣料品売場を展開するとともに、新たな専門店を導入した結果、リニューアルオープン以降、幅広い世代のお客さまにご利用いただき、売上高は当初計画を上回る推移となっております。
- ・既存店活性化の取り組みとして、3月にイオンモール福岡伊都（福岡市西区）をリニューアルオープンいたしました。イオンモール福岡伊都では、若いファミリー層が増加している商圏特性を踏まえ、小さなお子さまを連れてお客さまに、より快適なお買物をしていただけるようにフードコートや授乳スペースなど施設面を拡充したほか、SC全体のレイアウトを見直し、新たな売場や専門店を導入したことにより、リニューアルオープン以降の来店客数は前年同期間に比べ増加し、SC全体の売上高も当初計画を上回るなど好調に推移しております。
- ・商品面では、3月にナショナルブランドの中から食料品・日用品を中心に毎日の生活に必要な商品を厳選した値下げ施策を実施するとともに、満足品質で地域一番の低価格を目指すイオンのプライベートブランド「トップバリュベストプライス」の品揃えを拡大するなど、お客さまの毎日の生活を価格で応援する取り組みを推進した結果、既存店の食料品売場の客数は前年同期比100.4%、買上点数は前年同期比100.3%と伸長いたしました。また、ゴールデンウィーク10連休や5月1日の改元にあわせて実施した商品企画・セールスが好調で、その中でも早期承り会の規模を拡大したランドセルや、移動マーケット需要増に対応して催事展開したトラベル関連商品、買い替え需要に対応して売場を拡大した家電製品やリフォーム関連商品の売上高が前年同期間に比べ大幅に伸長いたしました。
- ・販促面では、地元九州にこだわった販促施策を推進し、3月に福岡ソフトバンクホークスとコラボしたTシャツを展開するなど地元九州のおトクな企画を満載した「イオンのおトク満祭」を実施いたしました。「イオンのおトク満祭」期間中の売上高は、前年同期間を大きく上回り、お客さまに大変ご好評をいただきました。また、当四半期末時点でダウンロード数が25万件を超えた「イオン九州公式アプリ」やソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の活用など販促施策の効率改善に向けた取り組みを推進いたしました。
- ・以上の結果、当四半期末における総合小売事業の店舗数は51店舗となり、売上高は436億1百万円（前年同期比97.8%）となりました。

<ホームセンター（HC）事業>

- ・HC事業においては、地域・店舗特性に合わせてDIY用品、ガーデン用品、ペット用品の品揃えを拡充するなど、地域密着型の店舗づくりを推進し、3月にホームワイド早岐店（長崎県佐世保市）をリニューアルオープンいたしました。ホームワイド早岐店では、従来型のHC売場を見直し、ガーデン・ペット関連用品売場を拡大し、専門性の高い売場の構築に取り組みました。ガーデン売場では、従来は取り扱いのなかった希少品種や鮮度の高い花苗の品揃えを拡充したほか、観葉植物や蘭のギフトコーナーを新設するなど、インテリアグリーン売場を拡大いたしました。また、ペット用品売場では、プレミアムフードや機能性フード、お手入れ用品やペットアパレル用品などの品揃えを強化するとともに、週末イベントを開催した結果、売上高は前年同期に比べて伸長しております。
- ・商品面では、3月～4月度は天候不順などの影響を受け園芸用品を中心に売上高は伸び悩みましたが、5月度は、気温の上昇とともに園芸用品、アウトドア用品が好調に推移した結果、既存店売上高は前年同期比105.6%と伸長いたしました。
- ・ホームワイドプラス賀来店（大分市）では、3月から宅配サービスを通じてお客さま宅をお伺いした際に、「DIYアドバイザー」等の有資格者が商品の組立・取付等の軽作業やリフォームのご要望を承る新たなサービス「WIDE（ワイド）便」を開始いたしました。当該サービスは、当初計画を上回るお客さまにご利用いただくなど好調に推移しておりますので、今後、地域の生活支援サービスの一つとして、対応エリアの拡大に取り組んでまいります。
- ・当四半期末におけるホームセンター事業の店舗数は、期中に1店舗閉店したことにより33店舗となり、売上高は45億20百万円（前年同期比96.1%）となりました。

<その他の事業>

- ・戦略小型店事業部では、新たな都市型小型店モデルの構築を目指し、品揃えや店舗オペレーションの検討をすすめ、5月に焼きたてパンと出来たてのお惣菜売場を併設した働く女性を応援する新たな小型店としてニコキッチン六本松店（福岡市中央区）をオープンいたしました。
- ・サイクル事業では、総合小売事業店舗内のサイクル売場を「イオンバイク」として専門店化する取り組みをすすめ、3月にイオンモール福岡伊都のリニューアルと連動してサイクル売場の品揃えや接客体制を見直し、イオンバイク福岡伊都店としてオープン、5月にはイオンバイク甘木店をオープンいたしました。
- ・以上の結果、当四半期末におけるその他の事業の店舗数は、期中に3店舗を開店、1店舗を閉店したことにより28店舗となり、売上高は10億83百万円（前年同期比106.2%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

<資産>

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ44億86百万円増加し、1,074億13百万円となりました。これは主に流動資産その他に含まれる未収入金が増加したことによるものです。

<負債>

当第1四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べて51億68百万円増加し、940億49百万円となりました。これは主に短期借入金が増加したことによるものです。

<純資産>

当第1四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ6億81百万円減少し、133億64百万円となりました。これは主に利益剰余金が減少したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月期の第2四半期及び通期の業績見通しにつきましては、本資料の公表時点において、2019年4月10日に公表しました業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当第1四半期会計期間 (2019年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,438	2,538
売掛金	1,327	1,783
商品	20,755	21,695
その他	3,799	6,848
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	28,318	32,864
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	34,231	34,319
土地	20,878	20,879
その他（純額）	6,111	6,177
有形固定資産合計	61,221	61,376
無形固定資産		
投資その他の資産	93	90
差入保証金	8,352	7,895
その他	4,940	5,186
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	13,292	13,081
固定資産合計	74,607	74,548
資産合計	102,926	107,413
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	1,003	965
電子記録債務	5,343	4,491
買掛金	14,169	16,288
短期借入金	9,034	17,908
1年内返済予定の長期借入金	10,704	10,114
未払法人税等	354	112
賞与引当金	549	1,158
その他	17,007	14,453
流動負債合計	58,169	65,493
固定負債		
長期借入金	19,490	17,275
資産除去債務	1,590	1,589
その他	9,630	9,690
固定負債合計	30,711	28,556
負債合計	88,880	94,049

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当第1四半期会計期間 (2019年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,159	3,159
資本剰余金	9,208	9,208
利益剰余金	1,661	985
自己株式	△5	△5
株主資本合計	14,023	13,348
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3	△18
評価・換算差額等合計	△3	△18
新株予約権	25	34
純資産合計	14,045	13,364
負債純資産合計	102,926	107,413

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期累計期間 (自2018年3月1日 至2018年5月31日)	当第1四半期累計期間 (自2019年3月1日 至2019年5月31日)
売上高	50,337	49,216
売上原価	36,355	35,451
売上総利益	13,981	13,765
その他の営業収入	4,131	4,222
営業総利益	18,112	17,987
販売費及び一般管理費	19,310	18,778
営業損失(△)	△1,198	△790
営業外収益		
受取利息	5	4
受取配当金	0	3
テナント退店違約金受入	10	28
差入保証金回収益	205	204
その他	17	25
営業外収益合計	240	264
営業外費用		
支払利息	57	62
その他	16	26
営業外費用合計	74	88
経常損失(△)	△1,031	△614
特別損失		
固定資産除売却損	10	60
店舗閉鎖損失	54	30
特別損失合計	65	90
税引前四半期純損失(△)	△1,097	△705
法人税、住民税及び事業税	45	50
法人税等調整額	△321	△267
法人税等合計	△275	△217
四半期純損失(△)	△821	△487

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 損益計算書 計上額 (注) 4
	総合小売 事業	ホームセン ター事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	44,594	4,706	49,300	1,020	50,321	16	50,337
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	44,594	4,706	49,300	1,020	50,321	16	50,337
セグメント利益又は損失 (△) (注) 1	115	△2	113	△40	73	△1,271	△1,198

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)は、社内管理利益によっております。

2. 「その他の事業」の区分は、総合小売事業とホームセンター事業に属さない販売形態の店舗で、現在は「ワイドマート ドラッグ&amp;フード」「イオンバイク」を展開しております。

3. (1) セグメント売上高の調整額は、各事業に帰属しない売上高であります。

(2) セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に各事業に帰属しない本社管理部門の一般管理費であります。

4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 損益計算書 計上額 (注) 4
	総合小売 事業	ホームセン ター事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	43,601	4,520	48,121	1,083	49,204	12	49,216
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	43,601	4,520	48,121	1,083	49,204	12	49,216
セグメント利益又は損失 (△) (注) 1	840	43	883	△21	862	△1,652	△790

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)は、社内管理利益によっております。

2. 「その他の事業」の区分は、総合小売事業とホームセンター事業に属さない販売形態の店舗で、現在は「ワイドマート ドラッグ&amp;フード」「ニコキッチン」「イオンバイク」を展開しております。

3. (1) セグメント売上高の調整額は、各事業に帰属しない売上高であります。

(2) セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に各事業に帰属しない本社管理部門の一般管理費であります。

4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

機構改革により報告セグメントごとの経営成績の管理手法を変更しており、営業費用の一部について計上されるセグメント区分を変更しております。これに伴い、前第1四半期累計期間の報告セグメントは、変更後の配賦方法に基づき作成したものを開示しております。